

2016 年度春学期修士論文テーマ一覧

2016 年度春学期において、修士論文を提出し、修了が認定された修了生について、氏名と研究テーマを以下に示します。

氏名：西村 俊美

題目：未経験女性農業後継者の就農に関する実践的研究

—京都府亀岡市におけるぶどう栽培を通じて—

梗概：本論文は、農業未経験で年齢も 40 代に入った筆者が家業の農業を継ぐことを決意したことを契機に、農業未経験で年齢も比較的高い女性が家業の農業を継いで就農した場合に、農業者ないし農業経営者として成功できる条件とは何かを、自らを対象として社会実験を行うことによって、明らかにしようとしたものである。すなわち、日本農業が高齢化や就農者の減少危機的状況にあることに加え、農業従事者に占める女性の割合が半数であるにもかかわらず、結婚等で農業をやらざるを得ないから仕方なく農業をやっている女性が多く、かつその地位や役割は従属的かつ受動的である一方、農業に従事したい女性が就農することは難しいという実態がある。つまり、農業は女性にとって魅力的な職業ではないという“常識”がある。本論文では、このような常識を覆し、農業は、筆者のようにたとえ未経験で年齢が高くても、一定の条件を満たせば、本人の意志と努力次第で、魅力的な女性の仕事として取り組んでいけるのだということを実証しようとした。

氏名：長谷川法子

題目：高等学校新設の政策過程における社会的自立支援の理念と実際

梗概：社会的自立の実現をいかに目指すのか、そのために高等学校教育はどのような在り方が望ましいのかを検討する。本論文では、まさにこうした問題への解決策の一つとして設置され

た新設高等学校を研究対象として分析を行う。生徒と学校を取り巻く諸問題に対する取組の一つとして、その学校の設置過程と運営状況の分析を行う。その際に「社会的自立支援」に着目する。なぜならこれこそ最終的な問題解決の方向であり、この高等学校教育の目的でもあるからである。多様な生徒が入学し試行錯誤しながら、柔軟な教育システムの構築と新しい教育プログラムの改善に向けての実際と今後の課題について論じる。

氏名：呉 善栄

題目：認知症カフェを介した認知症高齢者施策の在り方

梗概：近年日本は高齢化に伴い認知症高齢者の増加も見込まれており、その増加は介護費用と保険料などの社会的負担の増大とともに認知症の人の不安や家族介護者への負担の増加につながる。認知症高齢者に関しては様々な政策が行われているが認知症高齢者やその家族介護者の負担はまだ重くより支援の充実が求められているため、本論文では近年活動が期待されている認知症カフェの役割に注目し、文献研究と京都市近郊の事例研究により、今後の認知症カフェの課題を運営上の課題及び利用者側の課題の両面から検討し、さらに行政に求められる課題について考察した。

氏名：邵 詣超

題目：中国自動車産業の発展と政策問題

梗概：中国自動車産業は、政府の保護政策からスタートし、その後、外資の導入により成長軌道に乗った。WTO 加盟を契機に保護政策を廃し輸出振興期を迎えたが、2008 年の世界金

融危機はその輸出にブレーキをかけ、直接投資がスタートする。こうした経緯を文献から明らかにするとともに、貿易統計を詳細に検討、分析することで、中国の自動車産業の発展の足跡を明らかにした。中国は今後世界の自動車の生産基地から、消費地に向かうであろう。自動車引き起こす環境問題の深刻さに対して、政府の施策の問題点を指摘し、外国の諸策(カーシェアリング・混雑課金制度・グリーン輸送)を参考に、中国がとるべき政策提案を示した。